**第9回日本放射線事故・災害医学会**

令和3年7月吉日

各位

第9回日本放射線事故・災害医学会

大会長　長谷川　有史

公立大学法人　福島県立医科大学

第9回日本放射線事故・災害医学会のご案内

廃炉における医療の課題

この度、第9回日本放射線事故・災害医学会の大会長の任を拝命させていただきました公立大学法人　福島県立医科大学の長谷川です。皆様におかれましては、平素より当学会への過分なご支援を賜り、改めて御礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症は国内外で猛威を振るい、収束の兆しが程遠い状況です。当学会の皆様の中には、今まさに新型コロナウイルス感染症の対応に追われている医療従事者の先生方もおられるかと思います。このような状況下の中で、第8回日本放射線事故・災害医学会の大会長であった栗原先生がウェブでの開催を成功裏に収めたことは記憶に新しいと存じます。本年度も感染症対策並びに、先生方の貴重なお時間を鑑み、今大会に於いて学会をウェブでの開催とさせて頂くことになりました。

さて、9回目となる今年度の学会のテーマは、「廃炉における医療の課題」と致しました。福島第一原子力発電所（福島第一原発）事故から10年が経過して、事故の全体像がやっと明らかになりつつます。今大会では午前は教育講演1としてUNSCEAR2020を通して、その健康影響に関する全体像を皆様と共有したいと考えております。さらに、我々は福島第一原発事故の教訓を将来の危機対応に生かす観点から、教育講演2として、放射線・核物質の国際情勢について学び、我が国が抱える放射性物質に関する問題点を世界的な視点から、皆様と考えていきたいと存じます。また、午後のシンポジウムでは、現在我々が直面する「廃炉における医療の課題」として「α核種内部汚染に関するリスクと対策」を皆様と議論したいと考えております。α核種内部汚染の事例では、JAEAの大洗研究所におけるプルトニウムの吸入事故を線量評価と治療の両側面よりお話しいただく予定です。加えて、福島第一原発の廃炉におけるα核種内部汚染リスクとその対策について現場の皆様からご紹介いただき、その具体的な医療対応を模索してゆきたいと考えております。

最後に、本学会が被ばく・汚染を伴うあらゆる医療に関わる多様な背景をもつ関係者の皆様の情報と意識の共有、並びに万一の際にも迅速に対応可能な柔軟かつ実効性ある医療体制の構築に少しでもお役立ちできることを願っております。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

1. 日時：2021年9月4日（土）9：50-16：20

2. 場所・方式：福島県立医科大学よりオンラインによる配信（zoom ウェビナーを使用予定）

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

3. 参加費等：参加費：会員　無料　　　非会員　2,000円

4. **プログラム** 教育講演１　「UNSCEAR2020レポートの概要」

教育講演2　「知っておきたい放射性物質・核物質の国際情勢-防衛医官からみた放射線事故・災害医療」

シンポジウム「福島第一原発におけるα核種内部汚染のリスクと対策」

5. 参加受付：2021年7月23日（金）〜8月23日（月）

[**ウェブでのお申し込み**](https://ws.formzu.net/fgen/S53643477/)

電子メールでのお申し込みはワードファイルをダウンロードし、必要事項を記入して大会事務局宛に送信してください。

**＜ファイルダウンロード＞**

参加申し込みをされた会員・非会員の方には9月2日までに視聴方法のご案内をします。9月2日中にメールが届いていない会員・非会員の方は、下記アドレスにご連絡ください。

**尚、非会員の方は必ず8月23日（月）までに指定の振込先へ参加費をお納めください。**

6. 大会事務局：第9回日本放射線事故・災害医学会大会事務局

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人　福島県立医科大学　医学部　放射線災害医療学講座　内

E-mail: jaradm21アットマークfmu.ac.jp（アットマークの記載を“@”に変更してお送りください。）

以上